HOKKAIDO UNIVERSITY

Nitobe College

北大の人材戦略－新渡戸カレッジ

―変化に向き合う国際イノベーション人材―

HOKKAIDO UNIVERSITY Nitobe College

〒060-0817　札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学学務部教育推進課

NITOBE 教育システム推進事務室 新渡戸カレッジオフィス担当

URL:https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp

Email:nitobe-college@academic.hokudai.ac.jp

北海道大学の国際イノベーション人材育成に関する理念

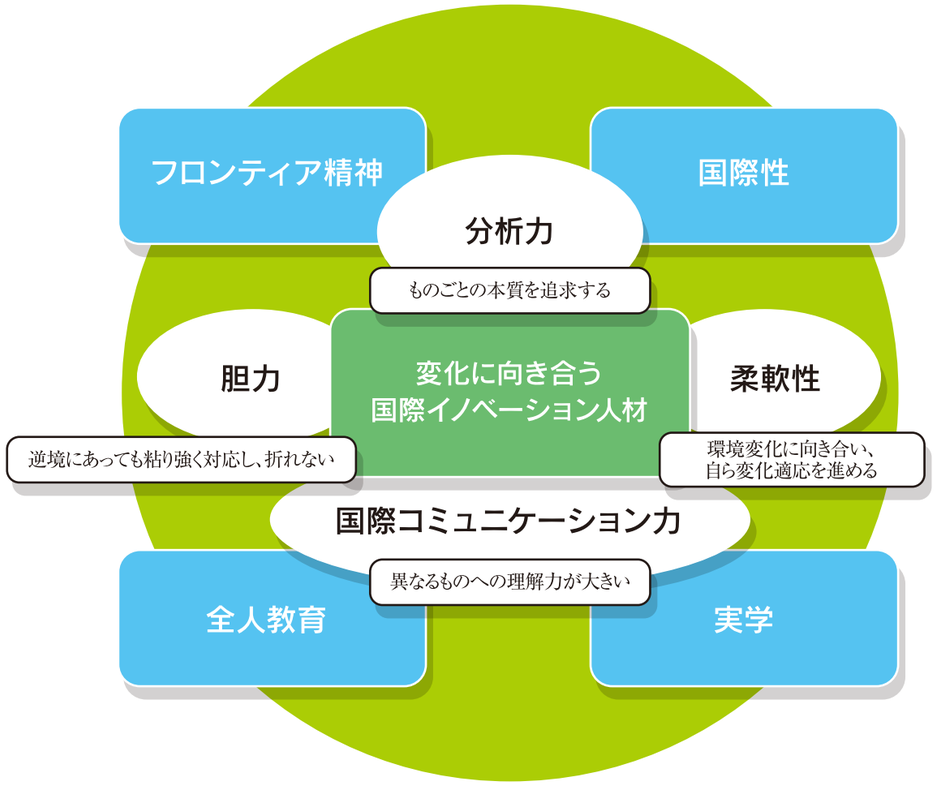
北海道大学総長からのメッセージ

新渡戸カレッジは、豊かな人間性をはぐくむための学部横断的な特別教育プログラムです。本カレッジ名の由来である新渡戸稲造は、豊かな精神性と真摯な活動により、本学の目指す「国際性の涵養」や「全人教育」の規範となる大先輩です。私たちの社会のグローバル化が急速に進行し、人や物や情報が瞬く間に世界を駆け巡る現代において、「新渡戸稲造の精神」が重要性を増してきています。この新渡戸の活動のように、幅広い分野にわたって、高い精神性と異文化理解、コミュニケーション能力を身につけた人材を数多く輩出することが、総合大学としての本学の使命と考えています。新渡戸カレッジの特色の一つは、大学が社会とともに皆さんに教育を提供し、研究するという本学が掲げる「実学を重視した研究・教育」の、新たな実践の場であるということです。この新渡戸カレッジの新たな挑戦を実現するために、すでに社会で活躍されている国際経験豊かな本学同窓生に、カレッジ副校長やフェローとして協力いただき、新渡戸カレッジ生の学修やキャリア設計を支援していただいております。これは、日本の大学でははじめての試みです。本学の人材育成の試みに、皆さまのご理解とご指導をよろしくお願い致します。

北海道大学総長
新渡戸カレッジ校長
名和豊春

急速な国際化の進展に対応し、変化に向き合い、国際的なイノベーションに貢献できる人材育成が、新渡戸カレッジのミッションです。

新渡戸カレッジは人材育成のためのリーディングプログラム。ここでの成果を全学に展開しています。



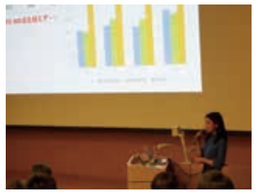
【実学】低下した日本の国際競争力

1990年代後半から2000年にかけて、日本の国際競争力が大きく低下。原因は産業社会のグローバル化に人材面で十分対応できなかったため。現在の大学の大きな役割は国際社会を生き抜く人材の育成です。

【国際性】多様性に学ぶ

北大の道外出身者比率は年々増加傾向で、現在65%。ここでは、全国から集まった12学部の学生と世界各国からの留学生が、札幌のひとつのキャンパスで学び、交流し、学際的、国際的な発想を育てます。

【フロンティア精神】インプットよりアウトプットで学ぶ



北大ではグローバル人材を育成するため、学部生対象の「新渡戸カレッジ」と大学院生対象の「新渡戸スクール」を特別教育プログラムとして提供。学生が自らアウトプットして学ぶことを進めています。

【全人教育】壊すこと、捨てることを学ぶ

北大では学術面での育成はもとより、社会が求める分析力、胆力、柔軟性、そして異文化対応力を含む人間性豊かな国際コミュニケーション力の高い、イノベーション人材の育成を進めています。

新渡戸カレッジでは何を学んだのか 1

「体験して身につける」「チームで成果を上げる」

国内外での人との交流、現場での体験で、人間性と国際性を養い、
国際的なイノベーションの推進に貢献します。

1. 交換留学

協定校では、留学先で取得した単位が、本学の取得単位として認定されます。優秀な学生には奨学金を支給しています。

2. 留学英語演習

[留学支援英語]

1クラス20人以下の少人数クラスで、教員による会話とライティング、プレゼンテーションを中心とした授業により、実践的な英語を身につけていきます。

3. 現地フィールド演習

少人数クラス（20名程度）の体験型演習です。この授業科目では、北海道の大自然の中で、チームワークの重要性を認識し、リーダーシップやリスクマネージメントを身につけていきます。

4. 留学生交流 [国際交流科目]

留学生と日本人学生が交流を深め、いろいろな考え方や価値観のあることを認識し、互いに啓発しています。原則として英語で行っています。

5. 多文化交流

外国人留学生と日本人学生との協同学習により、課題解決を行っています。多文化・多文化状況に関する理解を深めています。

新渡戸カレッジ出身者の声

留学が私の視野を広げてくれました

新渡戸カレッジ第1期生／法学部
総合法政コース 4年（2016年10月時） 内田志歩さん

中学生の時に日本人のフィンランドへの留学記を読み、この国の先進的な教育制度を学びたいと思うようになりました。新渡戸カレッジは「もっと自分を磨きたい」という学生の切磋琢磨の場。ここで同じように留学を目指す仲間たちと語り合うことが私の気持ちを高め、フィンランド留学実現を強力に後押ししてくれました。

フィンランドで実際に学ぶと、教員には修士課程を修了しないとなれず、社会的に非常に尊敬されていることなど、事前に本で読んだだけではわからなかった発見がたくさん。また授業中の疑問点を、学生がその場で解決しようとするスタンスにも感銘を受け、私も実行するように心がけました。いろいろ学んで帰国した時には、将来は日本の教員の労働環境の改善のために働きたいと思うようになりました。

留学に加えて新渡戸カレッジを続ける大きなモチベーションになったのは、世界を舞台に活躍しているフェローの方々の深い経験からの教えです。いろいろな意味で新渡戸カレッジが今の私を作ってきたと実感しています。

フェローとの対話で多くの気づきが

新渡戸カレッジ第1期生／理学部
地球惑星科学科 4年（2016年10月時） 平 亨さん

1年生の時に、漠然と将来役に立つと考え、新渡戸カレッジに入校しました。最初は長期留学など難しいという先入観がありましたが、様々なサポートを受けて、3年の夏から4年までの9カ月間、ハワイ大学マノア校に留学することができました。ハワイ大学では私の専門の地震学に関連する統計学やプログラミングの専門知識を学ぶことができ、今の研究にもこれらの手法を応用しています。新渡戸カレッジのフェローから中国語も大事とアドバイスされ、ハワイ大学ではビジネス中国語のクラスもとりました。初めての中国語に苦労すると、英語が簡単に見えてくるのです。授業は少人数制のディスカッションが中心で、最初は苦労しましたが、数学が得意ではない人が多いアメリカ人学生に助け舟を出すことが多くなり、そのうち議論の輪に積極的に入る自信がついてきました。

新渡戸カレッジで私が一番役立ったと思うのはフェローとの「対話プログラム」です。一対一の対話で、進路や就職についての具体的なアドバイスを得て、自分の考え方を深めることができました。

新渡戸カレッジの入校から修了まで *

1年
- 1年後期：正式入校。正式入校後、フェローゼミにて課題解決力やチームワーク力を身につける。新渡戸Dayに参加し、留学生と交流。
- 1年前期：グループミーティングで新渡戸フェローと話し合い。

新渡戸カレッジ仮入校

2年
- 2年：長期留学を考える。国際インターンシップも視野に入れる。新渡戸Dayに参加。
- 2年：新渡戸カレッジオナーズプログラムの履修申請。短期留学スペシャルプログラムに参加。海外の大学で授業を受け、そこで学生の友だちを作る。

3年
- 3年：対話プログラムに参加。フェローと一対一で対話を行い、フェローの体験に学ぶ。
- 3年：長期留学。他の国の生活と文化を体験。目標達成力向上ワークショップに参加。

新渡戸カレッジ
オナーズプログラムを修了

4年
- 4年：大学院、就職、社会について、フェローとの対話プログラムを継続。

企業/大学院

*1 全学の入学者約2600名のうち約200名が選抜によって仮入校します。
*2 典型的な例を示しています。プログラムは毎年見直しています。

新渡戸カレッジでは何を学んだのか 2

「現実と向き合う」「現場から学ぶ」

北大OBで、社会の第一線で活躍している「新渡戸カレッジフェロー」による指導と
日本企業の海外拠点でのインターンシップ制度などの活用で、
実践において力を発揮できます。

フェローによる実践演習

先輩である国際経験、社会経験豊富なフェローとともに、現実社会と向き合っています。

フェローゼミ

具体的な社会課題の下で、フェローとともに将来の姿を描きます。北海道の経済、都市問題、環境問題、観光開発などがテーマです。

対話プログラム

学生が一対一でフェローの国際感覚や経験に触れ、考える力・行動力・チームワーク力・人間性を育てます。年4回行い、対話と行動を繰り返して、「気づき」を得ます。

国際インターンシップ

日本企業の海外拠点の現場において、2〜3週間程度インターンシップを行います。学生が自らの専門分野や進路に関連した企業等での研修を通して、高い職業意識を培うとともに、異なる社会・文化状況の中で国際性とリーダーシップを学びます。

2017年度 新渡戸カレッジフェロー（抜粋）

■五十嵐 智嘉子
一般社団法人北海道総合研究調査会理事長

■石川 裕一
(株)ぶらう代表取締役社長
ジョンソンコントロールズ(株)取締役

■井上 修平
元双日(株)執行役員、顧問
シンフォニアテクノロジー(株)社外取締役

■上田 英樹
NTTコミュニケーションズ(株)理事
第三営業本部 副本部長

■大友 俊彦
中外製薬(株)グローバルプロジェクトリーダー

■小林 浩治
元トヨタ自動車トルコ製造(株)社長
元陽ブレーキ工業(株)専務執行役員

■重田 親司
元マルハニチロ水産専務取締役
元大東魚類(株)代表取締役社長 築地魚市場(株)社外取締役

■志済 聡子
日本アイ・ビー・エム(株)執行役員
セキュリティ事業本部長

■柴田 哲史
国土交通省北海道開発局
札幌開発建設部 札幌道路事務所長

■島田 元生
(株)ビスキャス顧問
元(株)ビスキャス代表取締役社長

■杉江 和男
元DIC(株)社長
(公財)産業教育振興中央会理事長

■多田 幸雄
(株)双日総合研究所相談役
長崎大学経済学部客員教授

■長岡 宗男
元米国三井化学副社長
札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク役員

■長沼 昭夫
(株)きのとや代表取締役会長

■村上 幸夫
内閣府公益認定等委員会非常勤
(株)MCインターナショナル代表取締役

■横井 成尚
サッポロビール(株)取締役執行役員

新渡戸カレッジフェローの声

グローバル人材に必要なもの

(株)明治屋代表取締役社長
元キリンビール(株)代表取締役社長
1973年 北海道大学大学院農学研究科
修士課程修了
松沢 幸一

私が新渡戸カレッジの学生にまず語るのは「将来、グローバルに活躍するため何が重要か」ということ。まずは人間として誠実に、後ろ指を指されず、きちんと倫理観を持ちながら周囲の人と付き合い、コミュニケーションできること。外国語は手段として身につけたほうがいい。でも「TOEFLで何点以上取る」というのは、サッカーでいえばリフティングを何回連続でできるかと同じようなもので、ゲームに入る前の準備にすぎません。相手が何を考えているのかよく聞き、自分が伝えたい内容をしっかり伝えることがコミュニケーションの重要な点だと、学生には話しています。グローバルに活躍するには、厳しい場所や環境でも前に進んでいけるタフネスさを身につける必要があります。日本は非常に恵まれた環境ですが、世界的に見るとこんなに整った環境は珍しいのです。かつては有名大学を卒業するとそれだけで評価されるという時代がありました。しかし今はどこの大学出身でも、周囲の人たちと上手くチームで仕事ができる人物が評価されます。グローバル社会になると、さらにその傾向は強くなります。北大には「全人教育」という教育理念とその実践の伝統があります。新渡戸カレッジはその伝統を受け継ぎ、グローバルな全人教育を目指しています。

新渡戸カレッジの可能性

大塚製薬(株)医薬営業本部
マーケティング部シニアマネージャー
2003年 北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了
伊藤 慎

学生に能動的な姿勢を身につけさせるために、新渡戸カレッジにはたくさんのプログラムが用意されています。志のある学生同士が刺激し合うことで大きく成長できる環境になっているのです。しかし元来リーダーの資質を備えている人は、周りのサポートがなにもなかったとしても、自身でその道に進んでいけるものです。それらを踏まえて、改めて新渡戸カレッジの役割は何かといえば、もともとリーダーになれる学生が10%だったとして、その割合を20%、30%へと引き上げること。また、資質のある学生の成長をより加速することです。そのために、我々フェローやカレッジの運営に携わる教職員が全力で学生をサポートしています。私はフェローのなかでは比較的学生に近い年代です。ですから、学生に近い目線で新渡戸カレッジのメッセージを広く伝えることが私の役割の一つ。同時に、学生に近い感覚や気持ちで新渡戸カレッジに対して発言することも重要な役割です。新渡戸カレッジオフィスの教職員や、私や先輩フェローたちは、常に話し合いを重ね、新渡戸カレッジをより良くする道を探っています。その成果は卒業する学生に確実に現れてきています。多くの企業のみなさまにも、実際その目で新渡戸カレッジの学生を見て欲しいと願っています。

新渡戸カレッジ・教員の声

カレッジ生にチャンスを提供

オレゴン州立大学　准教授
リカルド・ゴンザレス

新渡戸カレッジは、世界レベルのすばらしい教育プログラムです。カレッジ生は、さまざまな視点から世界を実感する機会に恵まれています。新渡戸カレッジでは、世界の疑似体験を通じて、カレッジ生が、実際の個人的、文化的な体験が可能になり、真のグローバルリーダーシップを発揮できるキャリアを見つけるチャンスを提供しています。オレゴン州立大学では、新渡戸カレッジ生に、異なる文化の橋渡しを提供していると考えています。私たちは、カレッジ生が夢を持ち、希望する新しい世界を切り拓くための手助けをしたいと思っています。私たちは、このような共通のミッションのもと、新渡戸カレッジと協働して高い目標に向かって進んでいることを誇りに思っています。

成長する新渡戸カレッジ生

北海道大学文学部　准教授
ミシェル・ラフェイ

新渡戸カレッジに関わって4年になりますが、学生の著しい変化にいつも驚きます。初めは、新渡戸カレッジフェローとのグループミーティングという今までの学びのスタイルと全く異なる体験に戸惑っていた学生が、豊富な経験を持つフェローや他の学生に刺激を受け、どんどん視野を拡大していきます。そして、1年ほどで自信を持って自分の道を探索するようになります。また、幅広い職業、背景、体験、国籍の人と話す数多くの機会によって、学生がコミュニケーション技術を学んでいきます。4年生までのプログラムを終えた学生は、応用力と柔軟性を持ちながら、多角的に物事を見て考えるようになります。新渡戸カレッジ生の将来に是非ご期待ください。